

波介川河口導流路の効果について

(平成25年9月台風17号関連)【速報値】

平成25年9月4日に接近した台風17号の降雨における波介川河口導流路の水位低減効果についてお知らせします。

なお、今回お示しする数値は【速報値】であり、今後、修正する可能性があります。

平成25年9月6日

国土交通省 四国地方整備局 高知河川国道事務所

※ この施策は、四国圏広域地方計画の広域プロジェクト【No.6 防災向上プロジェクト】の取り組みに該当します。

【問い合わせ先】

国土交通省 高知河川国道事務所
高知市六泉寺町96-7 TEL 088-833-0111 (代)
FAX 088-833-5140

副所長
○調査課長

たかい
高井
みふ
壬生

たかあき
孝明 (内線204)
けいこ
恵庫 (内線351)

○: 主な問い合わせ先

波介川河口導流路により波介川の水位を約1.6m低減【速報値】

- 仁淀川水系波介川では、昭和50年8月台風5号による豪雨災害を受け、波介川河口導流路を整備し、平成24年6月より運用開始。
- 平成25年9月4日の台風17号により、土佐市家俊で総雨量246mm(9月3日～4日の2日間)の降雨を観測し、波介水位観測所で12時00分にピーク水位約3.99mに達しました。
- 波介川河口導流路の整備により同観測所地点で約1.6mの水位低減効果があり、結果として水防団待機水位を下回る水位で収まりました。また、約110haの浸水被害を防ぎました。

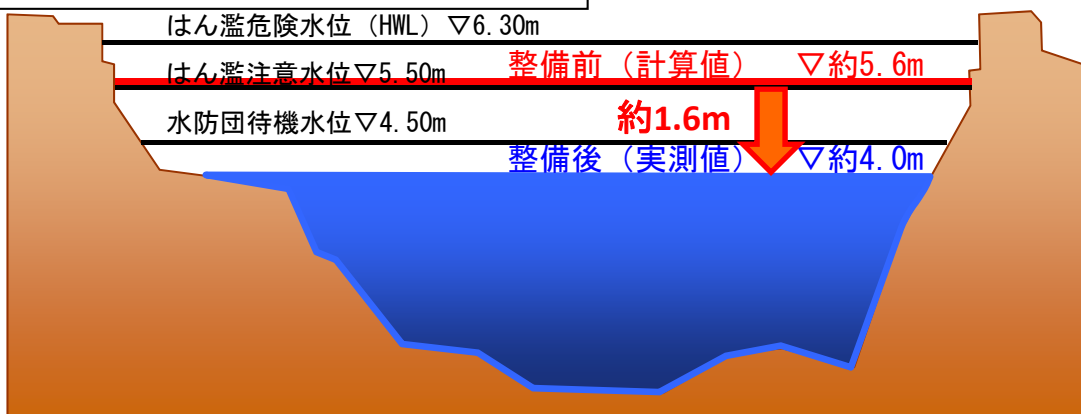
流域図



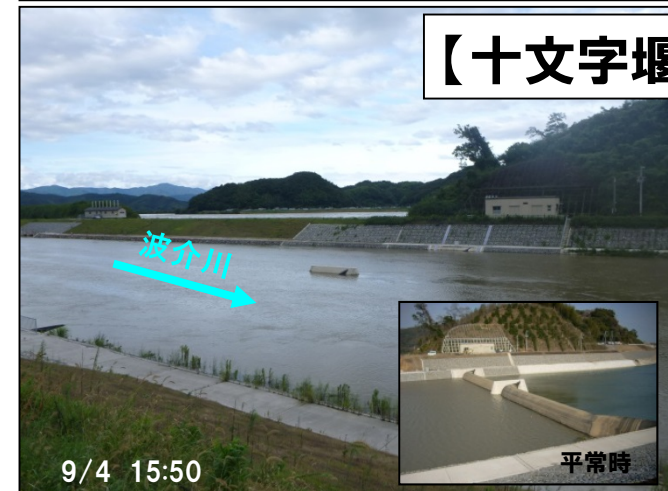
【波介川潮止堰】



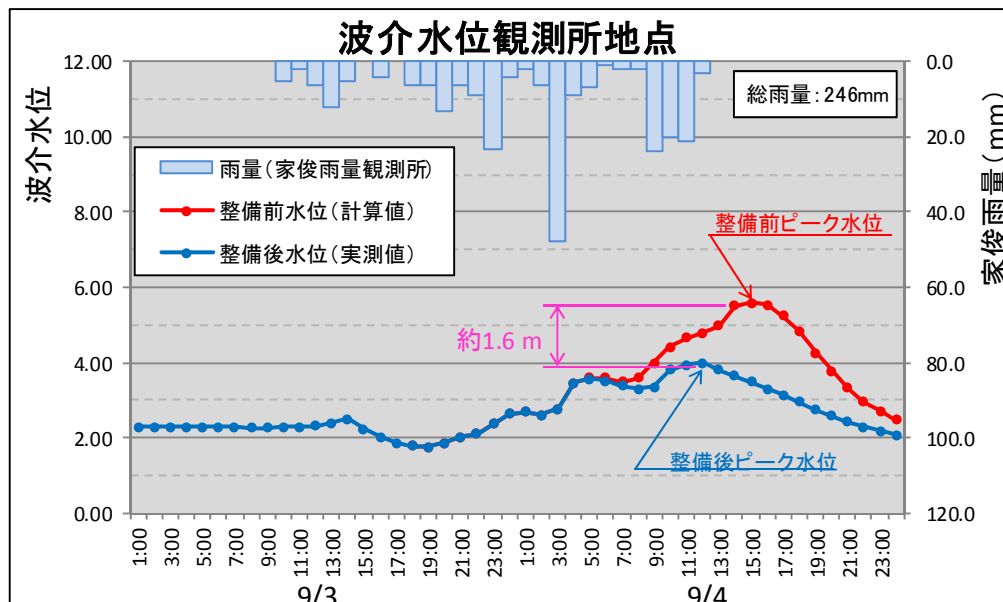
横断図(波介水位観測所)



【十文字堰】

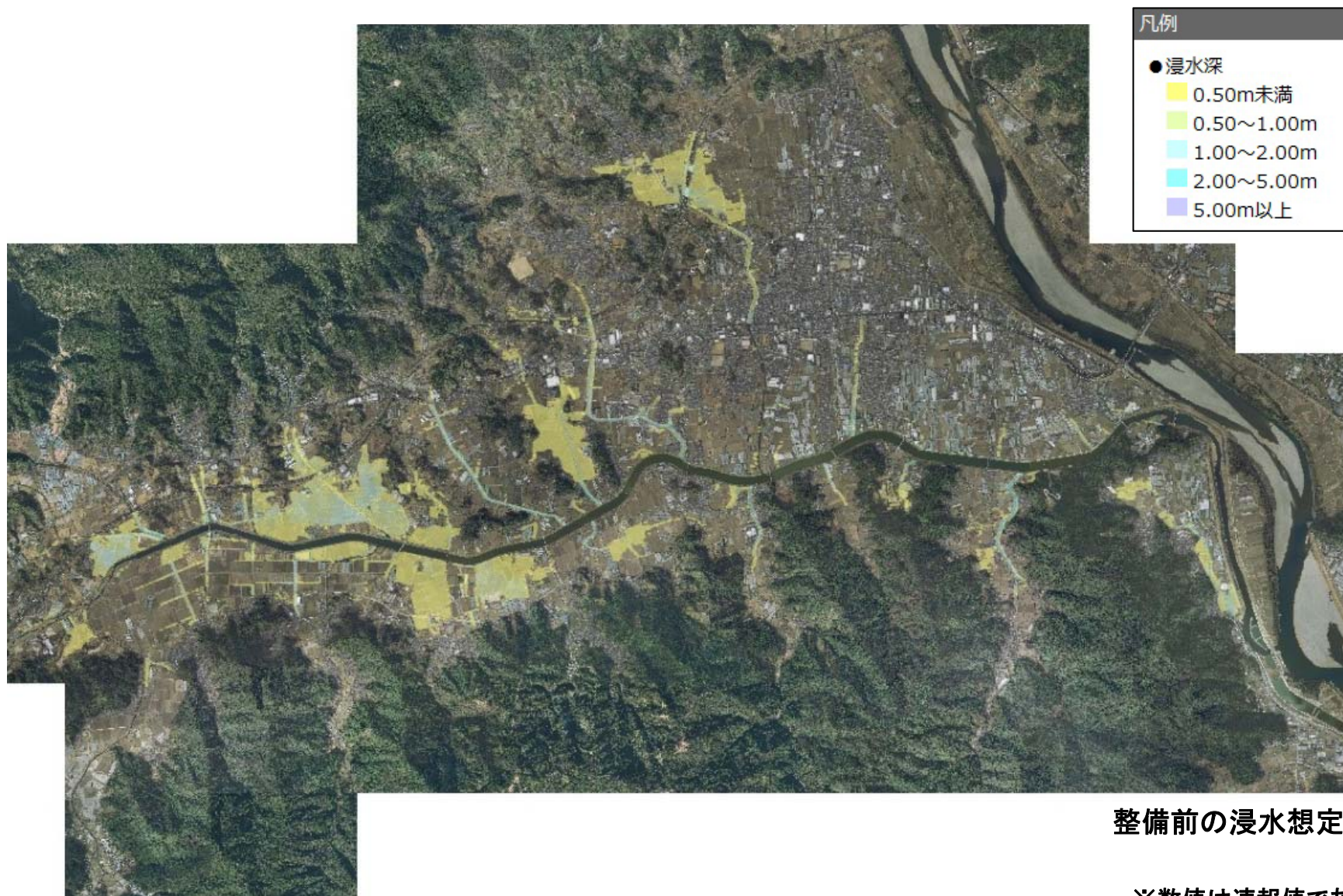


【参考】平成25年9月台風17号における波介川の出水状況



【参考】^{はげ}波介川河口導流路の効果について(平成25年9月台風17号)

【今回(整備後)】 0ha ← 【整備前】 約110ha (計算値)

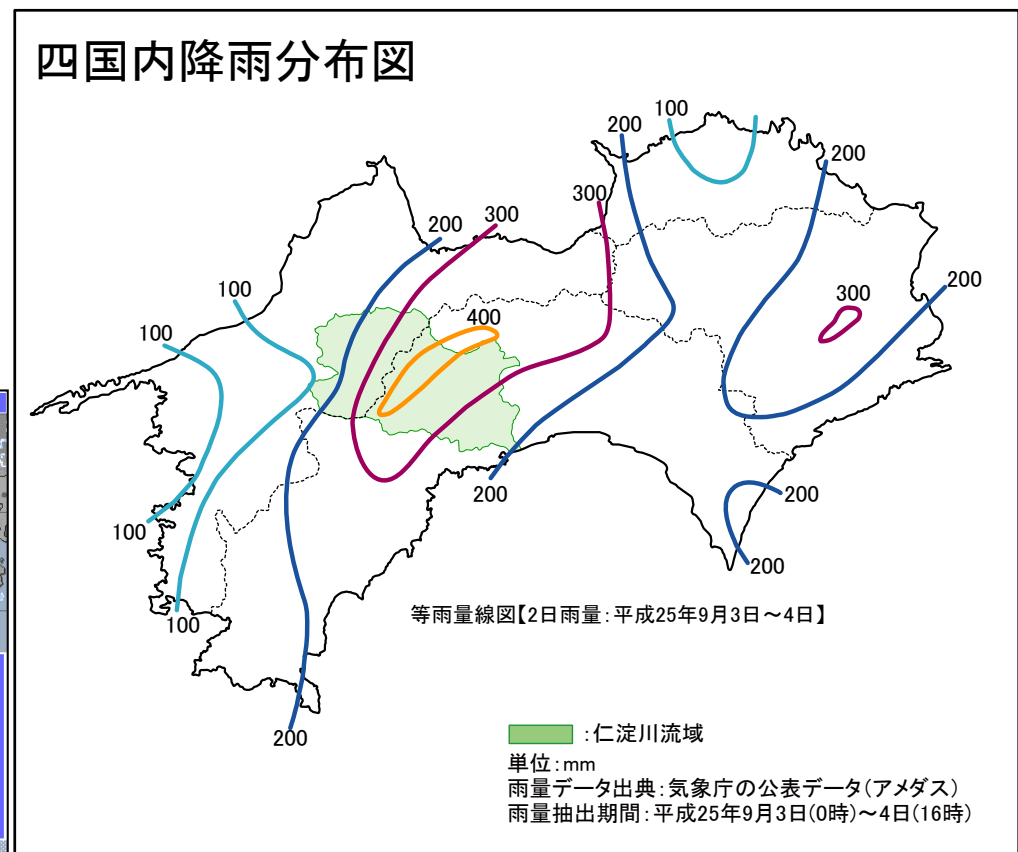
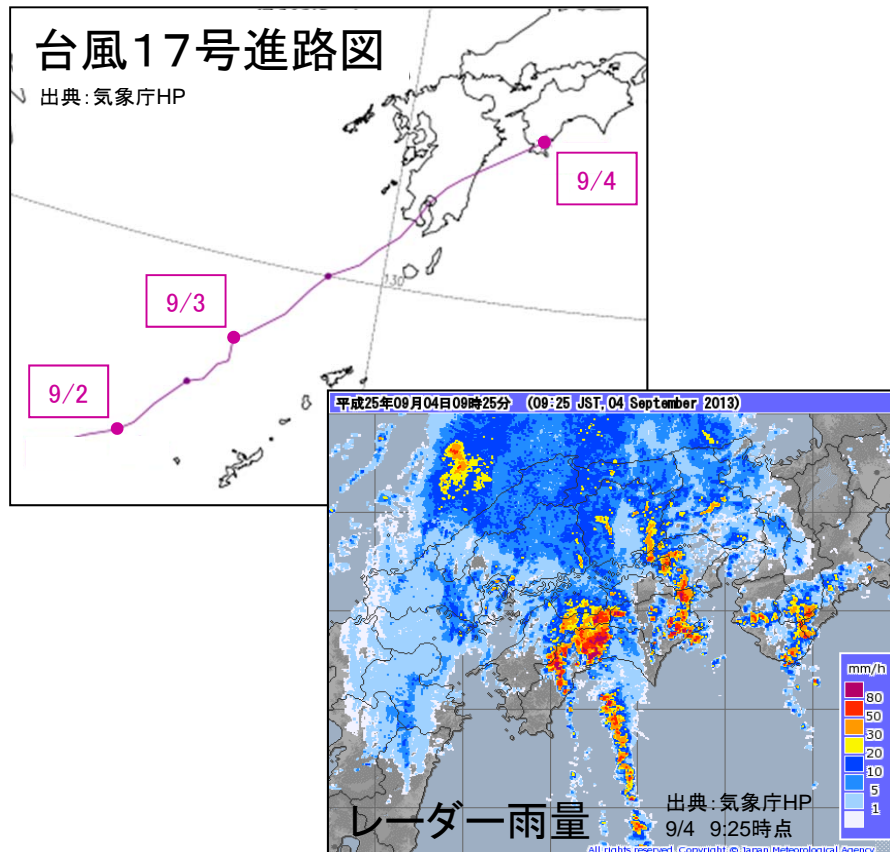


整備前の浸水想定図

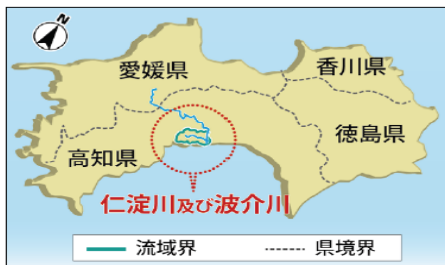
※数値は速報値である

【参考】平成25年9月台風17号の気象概要

- 平成25年9月2日に沖縄本島の北西海上で**台風17号**が発生。
- 台風17号は発達しながら9月4日3時頃に鹿児島県指宿市付近に上陸。その後9月4日9時頃四国付近で温帯低気圧に変わったが四国地方では、西日本に停滞する前線の影響や低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだため、強い雨雲が断続的に発生した。
- 仁淀川流域平均雨量(9月3日～4日の2日間)は311mm(速報値)を観測した。**



【参考】波介川河口導流事業の概要①



波介川は、仁淀川の河口から2.0km付近に合流する右支川で、流域面積73.3km²、流路延長19.0kmの土佐市を貫流する一級河川です。



事業経緯

年月	項目
昭和42年	波介川河口導流事業 計画策定
昭和50年8月	台風5号により土佐市内約3,400戸浸水
昭和60年	波介川河口導流事業 事業着手
平成16年3月	波介川河口導流事業 工事着手
平成19年4月	波介川床上浸水対策特別緊急事業 採択
平成24年6月	波介川河口導流路 運用開始

事業費

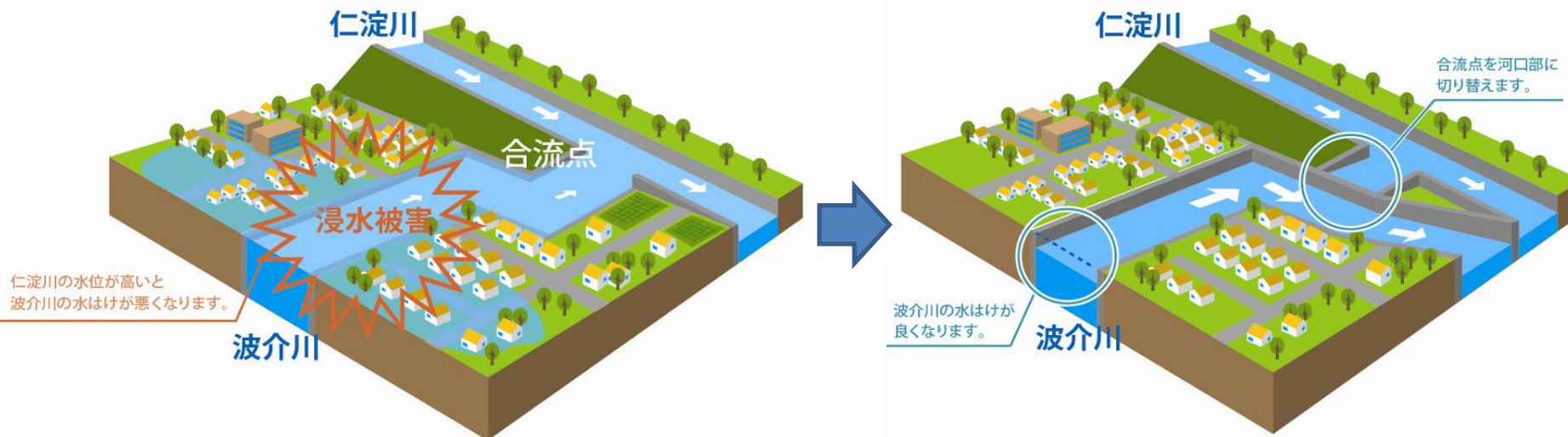
全体事業費 383億円
(うち床上特緊(H19~23) 161億円)

事業内容

事業延長 2,500m
河道掘削 150万m³
波介川樋門、十文字堰、波介川潮止堰

事業概要

波介川は上流へ行くほど地盤が低い低典型の地形であることに加え、仁淀川本川の水位上昇による背水の影響により、土佐市中心部は幾多の水害に悩まされ続けてきました。波介川河口導流事業は、仁淀川と波介川との合流点(2k/0)を仁淀川河口部に付け替え、波介川の洪水を流れやすくする事業です。



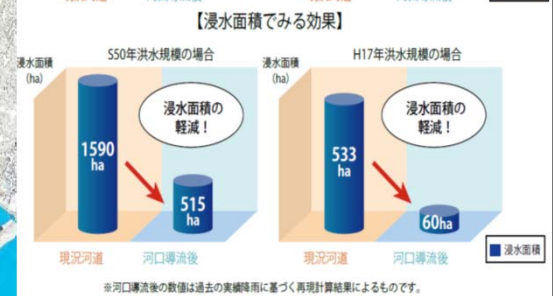
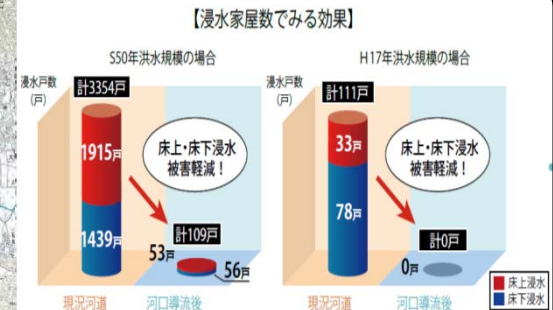
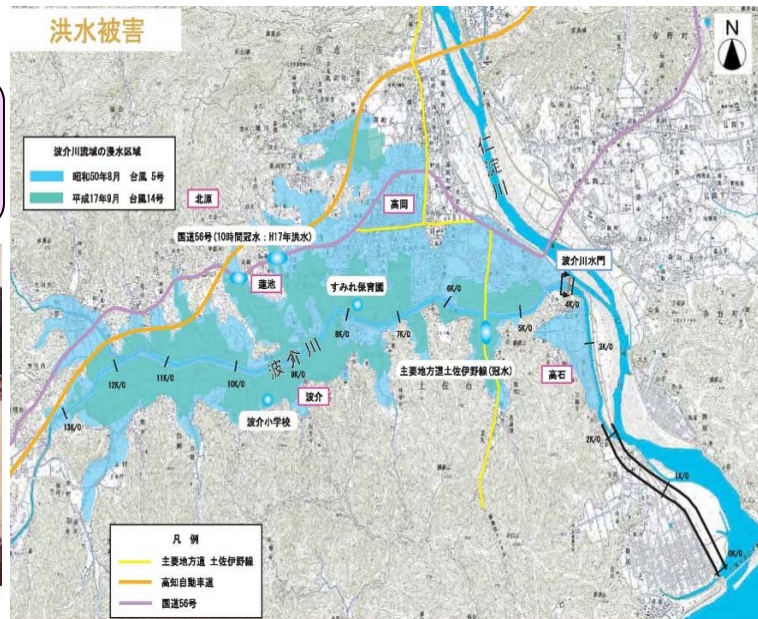
【参考】波介川河口導流事業の概要②

事業効果

波介川河口導流事業は、昭和50年8月洪水等を契機に事業がすすめられ、波介川河口導流事業を進めることにより、床上・床下浸水被害が大きく軽減されることとなります。



昭和50年8月台風5号(土佐市街地状況)



整備前(昭和62年12月撮影)



整備後(平成25年2月撮影)

